

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮設計活用マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	MWP	階数	地上9階
建設地	名古屋市中区葵三丁目2101番地、2102番地、2103番地	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	730 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,飲食店,集会所,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2021年8月6日
敷地面積	1,340 m ²	作成者	
建築面積	908 m ²	確認日	2021年8月10日
延床面積	5,651 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項		その他
総合 ・高断熱及び日射遮蔽性を高めることで、省エネルギー化と内外の環境制御に貢献する施設を目指している。また、オフィスフロアではABWの考えを取り入れ、働く人たちがシーンに応じて常に最適な空間、光、音環境を選択し、心身ともに健康的でパフォーマンスを発揮可能な執務空間づくりを行う。		
Q1 室内環境 ・南面に反透過アルミパンチングパネルを設け、日射抑止や柔らかな光環境を創出。 ・上下階、南北に風の抜ける風の道を設け、自然換気を誘発。 ・パンデミックにも配慮した一人当たり30m ³ /hの外気供給量を確保。	Q2 サービス性能 ・フリーアドレスを前提とした多彩かつ十分な広さを有したワークプレイスを整備。 ・直天井とルーバー天井により、開放的な執務環境を創出。 ・建築基準法に定められた25%増の耐震性を確保。	Q3 室外環境 (敷地内) ・劇場、テナント、オフィスが一体化した地域や社会に開かれたエントランス空間。 ・屋上に芝生広場を確保。
LR1 エネルギー ・壁面ガラス型の太陽光発電により、エネルギーを創出。 ・LED照明・人感センサーにより、エネルギーを削減。 ・排気熱を有効活用する全熱交換器による省エネルギーの実現。 ・高効率空調機採用による省エネルギーの実現。	LR2 資源・マテリアル ・スケルトンインフィルを徹底した再生可能な施設。	LR3 敷地外環境 ・南面は低層部では極力窓開口をなくし、高層階では窓の外にアルミパンチングパネルを設け、公害対策を実施。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

MWP

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.9
LR1	エネルギー	2.9	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.090115993	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1 有	0.009011599	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045057996	
3. 循環型社会				3.8
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.9



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。